

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク

メッセージシート

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 旭化成株式会社

1 団体の取組紹介

宮崎県延岡市にある事業場に建設したバイオマス発電設備において、宮崎県五ヶ瀬川流域から供給される木質バイオマス燃料を利用する取り組みを、宮崎県、延岡市、関係団体と進めています。

この取り組みにより、五ヶ瀬川流域の森林が保全され、生物多様性が保全されること、更に地産地消システムが形成され、里山の再生、地場産業の活性化が促進されることを期待しています。

また各地区の事業場では、工場緑地を生物多様性に配慮したものにして、従業員の教育の場、地域社会とのコミュニケーションの場として活用を進めています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者： 環境安全部：平井 宗男

T E L： 03-3296-3052

E-mail： Hirai.mg@om.asahi-kasei.co.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： アサヒビール株式会社

1 団体の取組紹介

アサヒビールでは生物多様性に配慮した事業活動をおこなうために、2010 年 3 月に「生物多様性宣言」を公表しました。



【生物多様性宣言に係る3つの基本方針】

1. 生きものたちのすむ自然を守ります
(生物多様性の保全)
2. 自然の恵みを大切に活かします
(生物多様性から得られる利益の持続可能な利用)
3. 世界中の人々と一緒に取り組みます
(生物多様性の普及)

主な取組み

- ・ 社有林「アサヒの森」での生物多様性保全
- ・ 全ビール工場の水源地の森保全活動
- ・ 営業拠点によるレクリエーションの森サポーター活動
- ・ アサヒスーパードライ「うまい！を明日へ！」プロジェクト
- ・ 生物多様性配慮商品(エビオス、豊作物語など)

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・ ネットワークを通して情報発信したい
- ・ ネットワークの協働による啓発・普及活動の実施

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	ワン チアリン
T E L：	03-5608-5195
E-mail：	Chialing.wang@asahibeer.co.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 株式会社伊藤園

1 団体の取組紹介

■□「トリプルS（CSR、CSV、ESD）」に基づく伊藤園の体系的なCSR活動

トリプルSは、「ISO26000のCSRに基づき、CSV（共有価値）を創造し、ESD（持続可能な開発のための教育）で人づくりをする」というCSRの体系である。当社は、基本のCSRを確実に行之、重点分野（環境、消費者、コミュニティ）についてCSVを実践し、この両者の組み合わせに人づくりの教育としてESDを推進することにより、体系的な活動を行なっている。

環境・人・社会に優しい企業を目指し、環境CSVとコミュニティCSVの中でSATOYAMAを位置づけている。このことに関しては、伊藤園ホームページ「CSR報告書（S-book）2013コミュニケーション編」の中における、「持続可能な社会・環境のための伊藤園の目標（41頁）」を参照してもらいたい。

http://www.itoen.co.jp/files/user/pdf/csr/report/communication_all.pdf

□具体的活動1：本業による活動

里山から消えた茶畑を取り戻すべく、当社は、2001年から宮崎県都城市、2006年から大分県杵築市において、お茶の新産地育成を開始しています。地元の市町村や事業者との協力のもと、遊休農地を大規模な茶園に造成することで、里山の自然景観を保持しています。当社は特に、茶葉生産に関する技術・ノウハウを全面的に提供することで茶の育成技術の修得と伝承に貢献しています。

□具体的活動2：協働による活動

地域と連携して行なう活動としては、「お茶で日本を美しく。」キャンペーン、田んぼの保全などを目的とした「田めになる学校」支援などを行なっています。

■□「お茶で日本を美しく。」キャンペーン

「おいお茶」全飲料商品売上の一部を対象となる地域（25都道府県）の環境保全などに寄付するとともに、社員も支援対象となる地域での環境保全活動など、ボランティア活動を行っています。このうち、関西地域限定で、「お茶で琵琶湖を美しく。」キャンペーン（協力：滋賀県）を実施し、寄付並びに「ヨシ刈り、清掃」などの保全活動を行いました。

■□田んぼの保全（「田めになる学校」の支援）（兵庫県豊岡地区、宮城県大崎地区、新潟県佐渡地区）

兵庫県豊岡市（コウノトリの里）、宮城県大崎市（マガンの里）、新潟県佐渡市（トキの里）が主催して実施している「田めになる学校」の開催にあたり、唯一のパートナーシップ企業として、各種支援を実施しています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

当社が行なっているCSR/CSV活動に関する発信。

「お茶で日本を美しく。」キャンペーンにおける社員の自然保全活動に関係する自治体、NPOなどの情報の取得。

企業と地域が協働して行なっている取り組み（分野、規模、場所、実施要領等）に関する情報の取得。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

「里地里山」の保全活動に関連して、企業が協力できる分野は多く、まずは取り組み事例を通じて、自治体、NPO等との情報共有が重要になると思われる。次いで、各団体からのプロジェクト提案について検討する場の設定が必要と思われる。

担当者： 野澤 歩

T E L： 03-5371-7213

E-mail： a-nozawa@itoen.co.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 積水樹脂株式会社

1 団体の取組紹介

積水樹脂グループは、「生物多様性の保全」を社会的責任の重要な一つと捉え、「生物多様性の保全」及び「持続可能な利用」に努めております。

【1. 国連生物多様性の10年日本委員会に協賛】

2010 年より、環境省とともに「国連生物多様性の10年日本委員会」に継続して支援を行っています。2012 年 11 月に、これまでの継続的な支援が認められ、同委員会より感謝状を授かりました。

【2. 国内3拠点およびタイで森林保全活動を実施】

国内では、主要生産拠点の滋賀（日野町）、長野（辰野町）、石川（能美市）の3箇所で、地元の森林組合に協力いただきながら、植林や間伐、下草刈りなどの活動を実施しております。滋賀での活動については、年間の森林 CO2 吸収量が、滋賀県「森林 CO2 吸収量認定制度」の認証を受けました。

海外拠点においては、2013 年にタイでマングローブの植林活動を行いました。

【3. 滋賀にてヨシ刈りボランティア活動の実施】

びわ湖の水質保全活動として、「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」に参画し、近江八幡市（西の湖）にてヨシ刈りボランティア活動を 2012 年より継続して行っております。

【4. 事業所内に生息する貴重動植物の保護】

事業所内に生息する貴重な動植物を保護する為に、人の立入りや土地開発を禁止した自然保護エリアを設置しております。これらの貴重種は、四季を通じてモニタリング調査を実施し、事業活動による環境影響がない事を確認しています。

【5. 地域との環境コミュニケーション】

地域の子ども達を事業所に招き、自然観察会を実施しています。2013 年度は、敷地内に生息する「ハッチョウトンボ」や「トノサマガエル」、「トウカイコモウセンゴケ」などの食虫植物の観察会を実施しました。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・ 会合毎に環境関連テーマを設け、情報交換できる機会を設けて頂きたい。
- ・ SATOYAMA 保全活動の成果を世間に発信して頂きたい。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

ネットワークでの活動の方向性、およびスケジュールを明確にした方が良いと思います。

担 当 者： 技術研究所 安全品質環境グループ 宮原義則

T E L： 0748-58-2488

E-mail： miyaharay@sekisuijushi.co.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 大成建設株式会社

1 団体の取組紹介

大成建設は実際の建設プロジェクトにおいて、また企業活動を通じて、以下のような「生物多様性への取組み」を行っています。

1 札幌ドーム：多様な生きものが利用する空間となる緑地計画条件を提示。

長期モニタリングで結果の検証を行った

2 富士山南陵工業団地：①自然配植緑化技術、②10年の森づくり、③産官学+地域が連携した森づくりスキーム
②と③を「フォレストバードプロジェクト」として工業団地進出企業と地域で活動を行っている

3 大手町タワー：「都市を再生しながら自然環境の再生を」をコンセプトにした「大手町の森」
都心における生物多様性への寄与として皇居周辺の緑地と連携する緑のネットワークを形成

4 一般廃棄物最終処分場整備等事業におけるビオトープ整備計画：事業で失われる自然の再現
学術的な調査、知見に基づいて計画地内のため池及び湿地の里山景観の代替環境を計画

5 当社従業員や家族によるボランティア：やまねの巣箱づくり 七国山グリーンシップアクション（里山保全活動）他

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

企業と地域が協働した取組に関心がある

里山の保全・整備と生物多様性オフセット

里山の公的機能の数値化、経済評価 →クレジット制度への展開

3 その他（自由にご意見を記入ください）

里山の「見るだけ」の保全では意味がなく、実際の「生活に基づく里山」が重要と思われる。

今後の人口減、高齢化、過疎化に流されず、逆に若い人達が「里山」で生産活動をしたい、と思うような環境づくり、ブランド化が必要ではないか。

担当者： 埴田 直子

T E L： 03-5381-5424

E-mail： hanita@arch.taisei.co.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 中越パルプ工業株式会社

1 団体の取組紹介

中越パルプ工業は、産業用紙から印刷用紙まで、あらゆる紙を製造販売する素材メーカーです。本業を通じて、生物多様性の宝庫、里山や森林保全に取り組んでいます。例えば、1998年から始めた「竹紙」の取り組み。試行錯誤の末、現在は年間2万トン以上の竹を製紙原料に活かし、放置竹林問題等の社会的課題の解決につなげます。また「里山物語」は、大きな2つのコンセプトを持つ印刷用紙です。①積極的な間伐材活用で森林保全、②販売価格に含む寄付金で里山保全を図ります。協業するNPOと、里山を持続的に有効活用する団体を支援します。これらの取り組みは、日本を代表する生物多様性保全の好事例として、国内外で紹介されています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

3 その他（自由にご意見を記入ください）

イベントのご案内

---銀座が里山の入り口になる、「里山のいま、みらい」---

当社と里山での市民参加による自然環境モニタリング調査などを行う公益財団法人日本自然保護協会（NACS-J）、里山での新たな社会的価値の創造を模索している NPO 法人里山保全再生ネットワークが語り部となって、里山の今と未来を多くの人に知ってほしいと、里山についてのトークセッションを行います。

各地のお米でつくったおにぎりを食べ比べる「利き米」、里山ミニ写真展、プロのクラリネット奏者による生演奏なども予定しています。山の公民館で村の未来を語り合うようなカジュアルな会にしたいと考えています。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

■ 日時 : 3月7日（金） 開場 18:30 開演 19:00

■ 会場 : 電源カフェ beez 銀座店（東京都中央区銀座2-4-19 浅野第3ビル5F）

■ 参加費 : 2,000 円（懇親会費込み）

詳細は中越パルプ工業 HP→イベントをご参照ください。

<http://www.chuetsu-pulp.co.jp/event/3014>

担当者： 営業企画部 片岡 裕雅

T E L : 03-3544-1508

E-mail : h-kataoka@chuetsu-pulp.co.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 高等教育コンソーシアム信州

1 団体の取組紹介

高等教育コンソーシアム信州は、長野県内の4年制大学(8大学)が相互に連携・協力し、長野県内の高等教育全体の資質向上を推進する組織です。地域の教育・学術研究の充実・発展を図るとともに、地域社会及び産業界との連携推進により、産学官による活力ある人づくり・街づくりへの貢献を目指し、その実現に取り組むことを目的としています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

高等教育コンソーシアム信州に加盟する長野県内8大学(信州大学、長野県看護大学、佐久大学、諏訪東京理科大学、清泉女学院大学、長野大学、松本歯科大学、松本大学)では、「遠隔講義システム」を利用した授業やセミナーのネットワーク配信を行うほか、就職支援や学生間交流など、長野県の高等教育に資するさまざまな取り組みを進めています。

また、この他にも、今後は「地域貢献」という視点からの連携拡大にも重きを置き、行政と協力した事業展開を考えております。



遠隔講義システムによる学生ミーティング



大学祭学生募金(長野県栄村復興支援)の受渡し

3 その他(自由にご意見を記入ください)

担当者：	高等教育コンソーシアム事務局(信州大学学務部学務課)奥原忠孝
T E L：	0263-37-2426
E-mail：	office@c-snet.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 公益財団法人国際湖沼環境委員会

1 団体の取組紹介

公益財団法人国際湖沼環境委員会（ILEC）は 1986 年の設立以来、世界の湖沼とその流域の健全な管理とこれと調和した持続的開発の在り方を追求し、国際的な知識交流と調査研究の推進に取り組んでいます。

湖沼は地球上で利用可能な淡水の 9 割を占める貴重な水資源であるとともに豊かな生態系を持ちますが、その多くが非持続的開発や地球温暖化等の影響により危機に瀕しています。

これを踏まえ、近年 ILEC では統合的湖沼流域管理の推進、世界湖沼会議の開催、湖沼流域管理のガイドライン等の出版や研修を中心とした国際協力活動を展開しています。

なお、今年の 9 月 1 日から 5 日にかけて、イタリアのペルージャにて第 15 回世界湖沼会議を現地の主催団体 USMA と共催いたします。詳細は当財団のウェブサイト（www.ilec.or.jp）をご覧ください。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

今後も、ネットワークを通して財団の活動についての情報発信をさせていただければと存じます。

また、当財団の活動に興味をお持ちの団体様との情報交換、交流の場として発展することも期待しております。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者： 公益財団法人国際湖沼環境委員会 萩原

T E L： 077-568-4567

E-mail： infoilec@ilec.or.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名：(公財) 地球環境戦略研究機関

1 団体の取組紹介

- ☐ IGES では現在、GIS や関連ツールを用いて、生態系サービスの定量評価や経済価値評価を実施しています。これまでに、千葉県において調整サービスを含む 10 以上の生態系サービスを定量的に評価するとともに、日本全国を対象に水質浄化サービスの物量評価および経済価値評価を実施してきました。今後は、里山やため池を対象として、定量評価と経済価値評価を一体的に行うための手法を開発していく予定です。
- ☐ また、IGES は SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) のメンバーとしても活動しており、IPSI 事務局である UNU-IAS 、および環境省とともに、IPSI メンバーを対象とした持続可能な里山利用を推進するための小規模資金支援プログラムを運用しています。現在、ネパール、タイ、台湾、ロシア、ペルー、ウガンダなどの多様なメンバーが各国の里山の現場にて持続可能な生産活動を促すプロジェクトを開始しています。またさらに、IGES は IPSI 協力活動の一環として、里山地域のレジリエンスを評価する指標の開発に参加しており、このレジリエンス指標の利用に関するマニュアルや活用事例などを含むツールキットの作成に注力しています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ☐ 生態系サービスの定量評価や経済価値評価に関しては、これまでに開発した手法を用いて、自治体などの比較的限られた範囲での精緻な評価を実施していきたいと考えていますので、ご興味ある団体がおられましたらお教えいただければと思います。将来的にはシナリオ分析などを通じて、土地利用計画などに貢献できればと考えています。
- ☐ また、持続可能な里山利用に関する国際連携に関わられている団体がいらっしゃいましたら、弊機関における小規模資金支援プログラムに関しても情報交換をさせていただく機会をいただければと考えております。さらには、里山地域のレジリエンス指標についても、ツールキット作成に伴い SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップのメンバー国のみならず、日本国内で里山のレジリエンスを評価し有効に活用するためのチャンスを探りたいと考えておりますので、ご興味がおありでしたら是非ご教示いただければ幸いです。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	岡安早菜 / 蒲谷景
T E L：	046-826-9616 / 046-826-9577
E-mail：	okayasu@iges.or.jp / kabaya@iges.or.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S)

1 団体の取組紹介

2005年に東京大学で初めての分野横断的組織として総長室総括委員会のもとに創設されたIR3Sは、世界に先駆けてサステナビリティ学の創生と世界的拠点形成を目指して活動してきました。IR3Sは、普遍性の高い世界共通の課題と固有性の高い地域的課題の統合により、グローバル・ローカル両面の問題解決を目指してきました。その成果はすでに、低炭素社会・循環型社会・自然共生社会の融合による持続型社会の構築といった政策ビジョンの提言につながっています。

IR3Sは、国内の大学・研究機関、ならびに自治体・産業界とのネットワーク形成につとめ、2010年には、一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム(SSC)を創設いたしました。また、2009年からは、アメリカ、ヨーロッパ等世界各地域のフォーカルポイントとなる大学・国際機関を結ぶメタネットワークの構築を目指しサステナビリティ学国際会議(ICSS)、またそのアジア版であるICSS-Asiaを主催大学等と共同で開催し、世界でこの分野をリードしてきました。

2007年からは、世界に先駆けて国際学術誌Sustainability ScienceをSpringer社より刊行してきました。この学術誌では、既存のディシプリンでは扱いづらい俯瞰的・統合的な論文や、アジア・アフリカなど開発途上国からの論文投稿を、特集企画などを通じて積極的に受け入れています。また2012年には、IR3Sが中心となって国際サステナビリティ学会(ISSS)が設立されました。ISSSの設立を機に、Sustainability ScienceをISSSの機関誌と位置づけることになりました。

IR3Sは、2007年に新領域創成科学研究科に創設されたサステナビリティ学教育プログラム(GPSS)にも深く関与しています。2012年からは、文部科学省博士課程教育リーディングプログラムの採択を受けて始まったサステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム(GPSS-GLI)の運営に参画し、研究の推進、社会連携、国際メタネットワークの形成とともに、世界のサステナビリティを担う次世代のリーダー育成にも力を注いでいきます。

2013年4月、IR3Sは2番目の機構として国際高等研究所へ編入されました。これを機に、IR3Sはサステナビリティ学の国際的な拠点として、ネットワークのさらなる拡張や、サステナビリティ学のコンセプトに基づく提言の社会実装等、研究教育の活動を一層活性化させたいと考えております。

東日本大震災は、サステナビリティ学のあり方にも大きな影響を与えています。持続型社会は、短期的・長期的な災害をしなやかに受け止めるレジリエントな社会でもあることが求められています。沿岸部被災地における里山・里海の連環の再生を通じた自然共生社会実現に向けたビジョン提言など、震災復興でもサステナビリティ学が重要な役割を演じると考えています。

(武内和彦 IR3S 機構長・教授挨拶より) <http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/about/greetings/>

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

(研究教育・国際連携活動) <http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/about/alliance/>

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	只見 康信
T E L：	03-5841-1551
E-mail：	tadami@ir3s.u-tokyo.ac.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 横浜国立大学

1 団体の取組紹介

横浜国立大学では里山里海に関わる研究や教育活動を行っています。具体的な一例としては、

- ① 大学院環境情報研究院が中心となって実施するリスク共生型環境再生リーダー育成プログラム（SLER）の下で開講される「統合的リスク管理対応力構築論」という講座の一環として、岩手県・陸前高田市、宮城県・岩沼市・南三陸町、福島県二本松市、神奈川県葉山町を視察し、現地での森林管理、緑地再生、自然調和型水産業、耕作放棄地における有機農業などの取組について現地の関係者の説明を受け、意見交換をするなどして、自然保護と農林水産業の統合的な推進について学んでいる。また、陸前高田市広田町で、タブノキやヤブツバキといった地元の常緑広葉樹の芽生え（実生）を採取し、ポット苗づくりの活動を地元の園芸組合の方々と実践した。二本松市東和では、放射能汚染が検出されている森林を伐採し、粉碎してできたウッドチップを網状の袋に詰めそれを地面に敷き詰め、地面とウッドチップの間にできるカビを通じてどの程度、地表の放射性物質セシウムが吸着除去できるかといった実証実験現場の視察も行っている。
- ② 上記 SLER では、「アジア・アフリカ II」という講座にて、合同海外実習を行っており、2011～2013 年に毎年 2 週間の予定でマダガスカルを訪問している。マダガスカルでは統合的生態系・社会的能力評価の実施を主題として掲げている。マダガスカルでは開墾と薪炭材生産のために大規模な森林伐採が進んでおり、その影響で土壌侵食が進み、土砂崩れ、粘土質土壌の灌漑水路や水田での堆積により、水田の生産性低下がみられる。耕作不能になった水田は放棄され、新たな開墾が行われ、結果的には森林伐採と水田の生産性低下、経済的困窮の悪循環が見られる。そうした悪循環を食い止め、持続的な自然資源利用や農村振興を促す取組として、斜面地の不耕起農法、アグロフォレストリー、育苗・植樹活動、落ち葉や古紙を水で溶融し固形化したものを燃料材である緑の薪炭材の取組などを視察している。
- ③ 学部生向けの講座としては、理工学部において地球生態学教育プログラム（EP）を設け、里山生態学といった講座を提供している。なお、こうした講座は環境・安全学副専攻プログラムの履修科目として指定している。
- ④ その他、2013 年 6 月 1～3 日に横浜で開催されたアフリカ開発会議に関連し、5 月 31 日にサイドイベントを企画し、上記のマダガスカルにおける統合的生態系管理の調査報告や、神奈川県における里山保全の取り組みに関する研究についての報告を行っている。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・ 優良事例についての情報共有やイベントや連携についての情報共有を希望します。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

上記活動の詳細は、<http://www.sler.ynu.ac.jp/>、<http://www.eis.ynu.ac.jp/>、<http://www.ynu.ac.jp/> で参照可能です。

担当者： 金子信博、小池文人、小林正典

T E L： 045-339-4358

E-mail： kanekono@ynu.ac.jp, koikef@ynu.ac.jp, m-kobayashi@ynu.ac.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： NPO 法人アースデイ・エブリデイ

1 団体の取組紹介

NPO 法人アースデイ・エブリデイの取り組み事業として2つあります。

・ 普及・啓発事業として

東京都町田市相原地区での里山保全プログラム。東京都町田市相原中央公園で里山保全活動、また子供達とのワークショップ、地元の学校に環境素材の提供を行っています。

・ 連携/支援事業として、

「一般社団法人 CEPA ジャパン」にて生物多様性を身近に普及啓発するネットワークに理事団体として、また、「国連生物多様性の10年市民ネットワーク」では、国連生物多様性の10年の目標を実現するために幹事団体として参加をしています。そして支援事業として「海と田んぼのグリーン復興プロジェクト」主に東北復興：生物多様性の観点から保全活動の在り方や事例について共有する産官学民のネットワークの活動を行っています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

高齢化、里地里山過疎化により里山荒廃が進んでいます。しかし、里山保全を行おうとしても、過疎化する里山や耕作放棄地は所有者、境界が不明です。例えば、ナショナルトラストのようにその土地を購入して守っていくという方法もあります。しかし、土地所有権がわからない、また資本力がないため里山保全は難しいのが現状です。

したがって、このネットワークで自治体とどのような協力をして里山保全を行っていくか関心があります。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

他業務のため会議の時間を 17:00 開始も検討して欲しいです

担 当 者： 服部啓子

T E L： 090-4818-9992

E-mail： Keiko_hattori@mvp.biglobe.ne.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 環境ふくい推進協議会

1 団体の取組紹介

環境ふくい推進協議会は、環境保全活動に取り組む人々の自発的な活動の推進母体として、環境保全にかかる県民、団体、企業のネットワークづくりおよび地域に根ざした活動の育成を図り、継続的かつ着実な環境保全活動の推進を図ることを目的として、平成6年10月に設立された団体です。

【環境活動事例発表会】

本協議会の総会時に、環境活動実践者の発表会を開催しています。今年度は、自然環境に関する取組みとして、福井市安居地区での環境保全活動について、「安居の里を守る会」の方にお話をいただきました。

【環境バスツアー】

地球環境、循環形成、自然環境の3分野のコースを用意したバスツアーを実施しています。今年度の自然環境分野では、福井市内の里山で、草木染め体験や地元料理を味わうほか、里山保全活動の見学を行いました。

【市町環境連携事業】

市町および市町の推薦する民間団体が企画する事業に対し、その一部を助成することにより、県内一円の環境保全活動の活性化を図っています。今年度は、里山に住む希少種の生態や生息環境を学ぶバスツアー（鯖江市）、里山等について学ぶ環境展（福井市）、里山体験等のイベント開催（越前市）等へ助成しています。

【普及広報事業】

本協議会会員向けに、情報誌「みんなのかんきょう」の発行、メルマガの配信を行い、協議会イベントや、環境に関する情報を随時発信しています。

【ふくい生物多様性保全支援事業】

県民・事業者から提供された資金により、生物多様性保全活動を実践する県内の団体へ費用の助成を行っています。今年度は県内の9団体へ助成を行いました。

【SATOYAMA 国際会議 2013 in ふくい】

里山ステイ、SATO ガール・SATO ボーイ育成プロジェクト、「里みずむ」作成、県民シンポジウム等、国際会議のイベントへ積極的に参加協力しました。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・ ネットワークを通して、環境ふくい推進協議会の活動をより広く周知していきたい。
- ・ 環境保全にかかる県民、団体、企業のネットワークづくりおよび地域に根ざした活動の育成のため、本協議会のネットワークづくりの参考としたい。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	保月勇志、吉田佳奈代
T E L：	0776-20-0301
E-mail：	kankyou@pref.fukui.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 認定NPO法人 共存の森ネットワーク

1 団体の取組紹介

●聞き書き甲子園(2002年～) <http://www.foxfire-japan.com/>

毎年、全国の高校生100人が、農林水産省が選定する森・川・海の分野の「名人」取材し、その知恵や技、生き方を「聞き書き」という手法で記録・発信する活動です。「聞く」というコミュニケーションを重視した活動で、ESD(持続可能な開発のための教育)としての評価も得ています。次年度で第13回目の開催になります。

なお、里山イニシアティブの一環として「聞き書き」を海外に普及するためのテキストを環境省、国連大学高等研究所、SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ事務局とともに製作しました。

●共存の森づくり(2003年～) <http://www.kyouzon.org/activity/mori/>

「聞き書き」の卒業生をはじめとする大学生を中心に里山・里地・里海保全の活動を行っています。企業や大学、地元NPOと連携しながら、現在、新潟・愛知・岡山・福岡など7地区の農山漁村地域で活動しています。

●能登の里山里海人の知恵の伝承事業(2012年～)

http://www.pref.ishikawa.jp/satoyama/noto-giahs/kikigaki_top.html

世界農業遺産に指定された能登の里山里海を世界に発信するために、能登半島の高校生が能登の里山里海人を「聞き書き」する活動を支援しています。(石川県環境部里山創成室・委託事業)

●「海辺の自然再生・高校生サミット」の開催(2013年～)

NPO法人海辺つくり研究会とともに第1回「海辺の自然再生・高校生サミット」を宮城にて開催。アマモ場の再生活動に取り組む高校生のネットワークづくりを目指しています。今年は青森で開催します。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

今年から、新たに「学校の森・子どもサミット」の開催事務局を担当することになりました。学校林や身近な緑を活用しながら森林環境教育に取り組む全国の小学校の児童、教員のネットワークをつくり、各学校の取り組みの活動支援につなげたいと思っています。現在、林野庁、国土緑化推進機構、オイスカ、ニッセイ緑の財団等と連携し、同活動の基盤づくりを行っているところですが、**学校林や森林環境教育の活動支援に関心のある企業や団体、NPOとのネットワークも広げていきたいと考えていますので、関心のある方はぜひお声かけください。**SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワークが、個々の企業や団体の情報発信の場となり、それぞれの活動を支える新たな連携や協働が生まれることを期待しています。

3 その他(自由にご意見を記入ください)

担 当 者：	吉野奈保子／森山紗也子／神谷由衣
T E L：	03-6432-6580
E-mail：	mori@kyouzon.org

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 独立行政法人国際協力機構（JICA）

1 団体の取組紹介

国際協力機構（JICA）では、人類すべての生命を取り巻く地球環境の保全に向けて開発途上国に対して技術協力、無償資金協力、有償資金協力を組み合わせた支援を行っています。「保護区及びバッファゾーン管理を通じた生物多様性保全」を戦略課題の一つとして掲げ、住民参加による公園・保護区（バッファ含む）管理計画の作成・実施、公園・保護地域管理ガバナンスの改善、保護区設定・拡大などの政策支援や生態系サービスへの支払い（PES）、希少種の生態調査などを積極的に推進しています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

途上国における生物多様性の保全と住民生活向上の両立を促進するため、開発途上国の行政官を日本に集め、課題別研修・「持続可能な自然資源管理による生物多様性保全と地域振興～「SATOYAMA イニシアティブ」の推進～」を実施しています。現在は、一般財団法人自然環境研究センター、石川県、金沢大学等のご協力を得て実施をしております。国内での研修にご関心をお持ちの団体との意見交換ができればと希望しております。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	地球環境部 森林・自然環境グループ 森林・自然環境保全第一課 三戸森 宏治
T E L：	03-5226-9523
E-mail：	Mitomori.Kohji@jica.go.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 国連生物多様性の 10 年市民ネットワーク

1 団体の取組紹介

国連生物多様性の 10 年市民ネットワークは、「国連生物多様性の 10 年」を市民の立場から推進し、「愛知目標」達成に貢献するための、市民や NGO のプラットフォーム機能としてのネットワークです。NGO、活動家、研究者、生物多様性に関心のある個人など多様な構成員が、愛知目標達成のキーワードでゆるやかに連携しています。

わたしたちは、里山資本主義に代表されるような、工業資本や金融資本にたよりすぎずに、自然資本を軸にした、日本の稲作漁撈文化の文化的価値を再発見することを通じた新たなライフスタイルがあるのではないかと考え、その具体化について、現場（市民）・NGO・科学者・行政連携のダイアログプラットフォームづくりを目指しています。

現在、多様な市民目線の論点を受け止められる「国際条約までつながる論壇」としての機能を整備しつつ、フォーラム活動や会員の現場活動を側面支援していますが、今後は特に、社会的な論点となる「生物多様性ホットスポット」の可視化と、アジア型の稲作漁労の明るい展望をもたらす事例開発を取りまとめ、アジア版の保全スタイルを国際社会に発信し共有することに、力を注ぐつもりです。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

現在、進めたい取組みとして

- ① 全国各地の生物多様性が豊かだが危機的状況にあるホットスポットをできる限り網羅した日本地図を作成すること
- ② 全国各地の生物多様性地域戦略の進捗、策定方法や内容を調査し、グッドプラクティスを抽出し、地方行政や地域住民に提案すること

を考えており、さまざまな地域で活動に取り組む方々の情報を得たいと考えています。

また、こちらで得た情報を発信し、共有することも希望しています。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

・ 東北アジアの SATOYAMA（稲作漁労に関わる人々）との連携を目指す必要があると思います。

・ SATOYAMA 保全は、そのまま人のつながりを再生する地域のコミュニティデザインと深い関係にあると思います。コミュニティデザイナーたち（studio-L など）とのつながりを強化し、事例の紹介など協力を要請する必要があると思います。

担 当 者： 坂田昌子

T E L： 090 - 5308 - 2197

E-mail： kenju_sakata@yahoo.co.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： こまつ SATOYAMA 協議会

1 団体の取組紹介

小松市は大日山から日本海に至るまでに、水田や木場潟、丘陵地が混在する豊かな自然環境に恵まれており、地域を少しでも見直し魅力あるふるさとにしようと、自然の恵みを活かした取組みを行っている団体が数多くあります。

これら里山における個々の活動を、「回廊」として結び、「面」で捉えることによって、里山保全活動を活発化させ、地域の魅力を飛躍的に増大させるために行政、専門家などと連携した「こまつ SATOYAMA 協議会」を平成 22 年 8 月に設立しました。

<基本理念>

- ・里山エリアにある、人・知識・文化財・自然環境・歴史・伝統文化など地域の恵まれた資源に関する理解を深める機会を創出します。
- ・地域の人たちが学び、蓄積した英知を活かし、地域に広がる様々な財産を「保全・継承・活用」を通して人材育成に努めます。
- ・さらに、魅力ある「人・物・情報」を結びつけ、効果的に働く仕組みを地域の住民自ら作り上げることによって、地域の魅力を増大させ、地域の自立活性化を促します。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・交流人口拡大に向け、特に大都市圏からの誘客に向けた取組み。
- ・里山保全ボランティア活動参加者増加に向けた取組み。
- ・県内外の高等教育機関との連携
- ・国内を代表する活動家（団体）への講演依頼
- ・活動に活用できる補助金・交付金制度の照会

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	小松市 経済環境部 環境王国こまつ推進本部（事務局） 中橋 充
T E L：	0761-24-8078
E-mail：	k-oukoku@city.komatsu.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 別府沼を考える会

1 団体の取組紹介

熊谷市内（別府地内）にある別府沼（都市公園として整備された H3 年）を「自然豊かな別府沼を復元し、少しでも残していこう」という地域住民が中心となり、行政とも協力して活動を行なっている。（H3～H26）の間に RDB の希少な植物を多数発見、小中学生の環境学習の場となる。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

一番の問題は、会員は多いのですが、参加人数に限られること（10～20 名程度）若い人の参加が必要と感じています。
今年は、青年会議所（40 歳までの会員）の参加を呼びかけていきたいと思っています。
観察会も協同で取り組んでいきたいと思っています。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者： 事務局 角張 一郎

T E L： 048-532-6007

E-mail：

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 水辺と生き物を守る農家と市民の会

1 団体の取組紹介	
・ 田んぼファンクラブ事業（田んぼづくり体験） ・ 水辺の生き物の生息場所整備（ビオトープ、退避講） ・ 田んぼの自然再生（冬水田んぼ、中干し延期） ・ 希少野生生物保全活動（アベサンショウウオ等） ・ コウノトリ見守り活動	
2 ネットワークへの要望や関心のある取組	
・ 情報発信（ネットソースを利用したい） ・ 企業との連携]	
3 その他（自由にご意見を記入ください）	
担 当 者：	事務局 日和 佳政
T E L：	0778-29-2811
E-mail：	mizubenokai_ikoikan@yahoo.co.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 愛知県

1 団体の取組紹介

愛知県は、「愛知目標」の達成に向け、平成25年3月に、新たな行動計画「あいち生物多様性戦略2020」を策定しました。この戦略では、「環境と経済の調和」を図る、全国初の仕組み「あいち方式」を中核的取組として掲げています。

「あいち方式」は、県民、事業者、NPO、行政といった地域の多様な主体が共通の目標の下にコラボレーション(協働)しながら、効果的な場所で生物の生息生育空間の保全・創出の取組を行うことにより、生物多様性への意識を高め、人と人とのつながりを育みながら、生態系ネットワークの形成を進め、「人と自然が共生するあいち」を実現する仕組みです。

この仕組みは、モデル3地域で平成22年度から先行して取組を進め、平成26年2月現在、県内6地域に展開しています。平成29年までには県内全域(9地域)で展開していく計画です。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

多様なセクターや地域の取組についての情報交換。

3 その他(自由にご意見を記入ください)

担 当 者：	環境部自然環境課生物多様性保全グループ 間下
T E L：	052-954-6475
E-mail：	shizen@pref.aichi.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 石川県

1 団体の取組紹介

石川県は、北には日本海に突き出た能登半島、南には日本三名山の一つである白山があり豊かな自然環境が残されています。県土の約6割が里山であり、人の暮らしと深い繋がりを持つ里海もいたるところにあります。

2011年3月には、「石川県生物多様性戦略ビジョン」を策定し、これら里山里海の利用保全を通じて、里山里海に新たな価値を創造することで地域社会を維持し、生物多様性を保全する「元気な里山里海づくり」に取り組んでいます。

(元気な里山里海づくりの一例)

・「いしかわ里山創成ファンド」

石川県と地元金融機関で創設した基金（総額53億円）の運用益等を活用し、里山里海の資源を活用した生業（なりわい）の創出、里山里海地域の振興、多様な主体の参画による里山保全活動の推進、里山里海の恵みの大切さについての普及啓発などを行っています。

・「いしかわ版里山づくりISO」

国際的な環境規格である「ISO」の考え方を参考に、企業やNPO、都市住民などが行う里山里海の利用保全の取組を県が認証する制度。道具の貸出やアドバイザー派遣など、活動の側面的な支援を行っています。

・世界農業遺産「能登の里山里海」の利活用・保全の取組

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- 参加団体との交流・情報収集・共同発信
- 企業、民間団体、学術研究機関と協力・連携した里山里海づくり

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担当者： 環境部里山創成室 山本 善述

T E L： 076-225-1469

E-mail： satoyama@pref.ishikawa.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 鹿児島県

1 団体の取組紹介

鹿児島県では、管理不十分な森林を適切に管理するため、森林環境税を活用して、山林等において荒廃した雑木竹の伐採整理、マツ枯損木の伐採整理や風倒木等により防災機能の低下した里山林における植栽を実施するための補助事業に取り組んでいます。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

企業と地域の連携に関する情報に関心があります。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担当者： 環境林務部自然保護課 原之園

T E L： 099-286-2613

E-mail： shizenho@pref.kagoshima.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 神奈川県

1 団体の取組紹介

神奈川県では、里地里山の有する「四季折々の風景」、「多様な生物を育む空間」、「生活文化の伝承の場」、「自然とのふれあいの場」などの多面的機能の発揮と次世代への継承を図ることにより、県民の健康で心豊かな生活の確保に寄与することを目的に、平成 20 年 4 月に「神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例」を制定し、取組を行ってきました。

条例では、集落と農地・水路・ため池・雑木林などの農林地が一体となった地域について、県は市町村からの申出により、「里地里山保全等地域」の選定を行い、その地域の住民や土地所有者を主体とした活動団体と土地所有者等との間で締結された、里地里山の保全等の活動に係る協定を県が認定し、その活動に対して支援（面積当たりの補助）を行うこととしています。

条例施行から 5 年が経過し、これまでに 15 地域を選定し、16 団体の協定を認定し活動を支援してきましたが、活動団体の活動継続が今後の課題となっています。

活動団体の会員の固定化と高齢化、人手不足、資金不足（県補助金も 6 年以降は減額される）、活動内容のマンネリ化、PR 不足など様々な問題もあり、こうした問題を解決するための新たな施策を検討しています。

また、県では、里地里山の保全や多面的機能の発揮の重要性について多くの県民に理解を促進してもらうため、子どもとその保護者を対象に里地里山体験学校（年 3 回程度、田植え～稲刈り等）を実施したり、里地里山シンポジウム（講演会、事例発表など）を開催しています。

里地里山の保全等の取組を促進していくためには、多くの県民への理解と参加の促進、そして、多様な主体との協働・協力が不可欠であると考えています。今後は企業や大学等との連携を進めていきたいと考えています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

○ 企業や大学との連携、情報発信

企業や大学との連携した取組や、ネットワークを通じた情報発信に関心があります。

里地里山の保全等の効果をわかりやすく都市住民（企業、大学も含む）に発信し、関心を持ってもらいたいと考えていますが、そのためには、保全等の効果のモニタリングや結果の検証、評価が必要であると考えています。

全国で、こうした研究成果をわかりやすく発信できれば、効果があるのではないかと思います。

○ 里地里山保全等の活動に適した保険制度の創設

県内の活動団体では、里地里山の保全等に適した保険制度の創設が課題となっています。

荒れた里地里山の整備には、刈り払い機、チェーンソーなどによる作業があり、農作業には農業用機械の使用もあります。

ボランティア保険の対象には、チェーンソーや農業用機械は含まれず、民間の保険会社にチェーンソーが対象となる保険を作ってもらおうと、掛金は年間 10 万円を超え、ボランティアには負担が大きいのが実情です。

また、農業用機械については、農業者用の保険がありますが、農家ではないボランティアは加入ができません。

里地里山に住む地域の人々は高齢化が進み、活動の後継者も減っています。こうした中で都市住民などのボランティア人材は里地里山の保全等には欠かせませんが、危険な作業によるけがや後遺症、賠償責任も全て自己責任でという状況では、ボランティアの募集も難しい面があります。

これは全国的な問題ではないかと思いますので、ボランティアの負担の少ない保険制度の創設ができれば良いと考えています。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者 :	環境農政局農政部農地保全課 農地活用グループ 平岡、近藤
T E L :	045-210-4475（直）
E-mail :	sato.m8z0@pref.kanagawa.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 岐阜県

1 団体の取組紹介

岐阜県では、平成24年度から「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、豊かな森づくりや清流の保全など「清流の国ぎふ」づくりを進めています。

具体的には、水源林や里山林の整備、教育施設等への県産材の利用促進、また鳥獣害の防除、里地の保全、流域河川清掃、河川魚道の機能回復など生物多様性や水環境の保全に取り組んでいます。里山林の整備に関する取組みは以下のとおりです。

(1) 里山林整備事業<市町村、各種団体等への補助事業> *補助率：10/10（定額）

- ・内容：侵入竹、不用木等の除去、森林病虫害の防除、修景等の環境保全、緩衝帯の整備 など
- ・目標：2,600ヘクタール（H24～H28）

(2) 環境保全モデル林整備事業<県事業>

現代の生活スタイルに即した、新たな里山林の利活用方を構築していくための里山モデル事業。

- ・内容：環境保全モデル林の選定、活用計画策定と整備
- ・目標：5箇所（H24～H28）

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担当者：	岐阜県環境生活部自然環境保全課 山田陽子
TEL：	058-272-1111（内2700）
E-mail：	c11265@pref.gifu.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 佐賀県

1 団体の取組紹介

佐賀県では、生物多様性重要地域を選定し、そこで保全活動を実施している団体を支援しています。今年度は、選定された 4 地域で活動している保全団体に支援をしており、その中に佐賀平野のクリークや水路を対象として、活動している団体があります。

具体的な取組内容は、クリークや水路の生き物の調査、クリークや水路の周辺の学校に対しての講習会、観察会開催などの啓発です。

身近な生きものについて、子ども達が関心を持ち、その周囲の田んぼで作られているお米とのつながりを意識してもらうような啓発をしています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・ 学校と地元の団体が協働した取組に関心がある

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者： 天草 努

T E L： 0952-25-7080

E-mail： amakusa-tsutomu@pref.saga.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 滋賀県

1 団体の取組紹介

○人と自然の関わりを見つめ直す仕組みづくりを進めています。

- ・（仮称）滋賀県生物多様性地域戦略を策定中。
- ・マザーレイク21計画に基づく取組みを推進。

○多様な主体の里山へのかかわりを取り戻す取組みを進めています。

- ・里山リニューアル事業：里山の所有者と市町の協定により、市町が里山を整備。
- ・里山づくり事業：里山の所有者と保全団体と市町の三者協定により、保全団体が里山の保全整備活動を実施。
- ・やまのこ事業：小学生に対し、里山の重要性や整備についての体験学習を実施。
- ・琵琶湖森林づくりパートナー協定：企業と里山を結び付ける。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・他の自治体の取組み事例を知りたい。
- ・自治体以外の主体の里山保全に対する考え方や取組みに興味がある。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担当者：	琵琶湖環境部 自然環境保全課 三宅
T E L：	077-528-3483
E-mail：	miyake-moe@pref.shiga.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 徳島県自然環境室

1 団体の取組紹介

徳島県では、平成25年10月、「人と自然の調和を目指した仕組みづくり」を示す羅針盤として、「生物多様性とくしま戦略」を策定しました。この戦略は、「生物多様性という地域資源を活かした、コンパクトな循環型社会を目指して」という副題を掲げ、過疎化の進展が顕著な中山間地域における、

- ・地域住民で行う共同作業や伝統行事等の消滅
- ・主産業である一次産業の衰退
- ・鳥獣被害の増加
- ・耕作放棄地や荒廃した森林の増加

等の問題に対応し、併せて「東日本大震災」を踏まえた防災の観点から、

- ・コンパクトで自立的なライフラインづくり

等にも取り組むこととしています。

これらの達成のため、戦略には14の目標と55の行動計画を示していますが、中でも特に優先して取り組むべき12の重点施策を掲げています。

- ①とくしま生態系レッドデリスト策定プロジェクト
- ②外来生物駆除対策プロジェクト
- ③水源の維持・確保プロジェクト
- ④エネルギーの地産地消プロジェクト
- ⑤カーボンオフセットによる森林整備プロジェクト
- ⑥官民協働による伝統的な文化・技術伝承プロジェクト
- ⑦中山間地域における活動団体の支援プロジェクト
- ⑧鳥獣被害防止プロジェクト
- ⑨生物多様性リーダー育成プロジェクト
- ⑩郷土野菜・作物等の再発見プロジェクト
- ⑪事業者向け生物多様性取り組みガイドライン作成プロジェクト
- ⑫生物多様性に配慮した農林水産業育成プロジェクト

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・行政、企業、研究機関の都道府県を越えた連携の構築を期待したい。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	土井伸一郎
T E L：	088-621-2331
E-mail：	doi_shinichirou_1@pref.tokushima.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 栃木県 環境森林部 自然環境課

1 団体の取組紹介

栃木県では、手入れ不足等によって荒廃した里山林がみられるようになっており、平成22年9月に策定した「生物多様性とちぎ戦略」において「里地里山保全再生プロジェクト」を重点プロジェクトのひとつに位置づけています。

里山での取組として、とちぎの元気な森づくり県民税（森林環境税）を活用し、地域主体による身近な里山林の再生や、人と野生獣との生活圏の境界となる緩衝帯の整備を進めています。

（参考 URL）<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d01/eco/shinrin/zenpan/genkinamoridukuri.html>

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

里山林を保全していくためには、地域の方々が里山の価値を再発見し、継続的に利活用していく事が必要であると考えております。ネットワークでは、様々な地域での取組や事業の情報を教えていただき、栃木県の里山林保全の参考にしたいと考えております。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	栃木県 環境森林部 自然環境課 自然保護担当 墨谷祐子
T E L：	028-623-3207
E - mail：	shizen-kankyou@pref.tochigi.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 長野県 環境部 自然保護課

1 団体の取組紹介

長野県は日本の屋根と呼ばれる高く険しい山々を抱え、多種多様な地質が分布するとともに、南北に長い県域は日本海岸式、太平洋岸式、あるいは内陸性の気候に分かれています。

この複雑な地形や地質、気候条件は長野県の豊かな環境基盤を形成しており、日本屈指と言われる長野県の豊かな生物多様性を育くんできました。

しかし、長野県においても様々な要因により多くの動植物の生息・生育が脅かされている状況から、2012年2月に「生物多様性ながの県戦略」を策定し、40年後のビジョンとして長野県の生物多様性のあるべき姿と、実現するために取り組むべき今後10年間の行動計画を定め、県民や事業者、NPO、行政が、様々な機会を通じて連携・協働しながら戦略を推進しています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・ネットワークに参加されている地域がどのような取組を行っているのかという点、特に企業と地域が協働した取組に関心を持っています。
- ・ネットワーク活動を通じて長野県の取組に関心を持たれている団体等の皆様と、何らかの連携活動ができれば幸いです。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	長野県 環境部 自然保護課 自然保護係 神谷 一成
T E L：	026-235-7178（直通）
E-mail：	shizenhogo@pref.nagano.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 兵庫県

1 団体の取組紹介

兵庫県では、2009 年 3 月に「生物多様性ひょうご戦略」を策定し、この戦略をもとに人と自然の共生を目指した各種の取り組みを総合的に進めてきました。

具体的な取組として、人間とコウノトリが共生できる環境づくりを目指す「コウノトリの野生復帰事業」、手入れがされず荒廃しつつある里山林を、景観を維持しつつ林内の光環境を改善して種多様性の高い夏緑高林を目指す「兵庫方式による里山林整備事業」、都会近くに残され今なお豊かな歴史・文化や生物多様性などの魅力を保つ希少な空間である北摂の里山地域一帯の持続的な保全を図る「北摂里山博物館（地域まるごとミュージアム）構想」の推進などを実施しています。

また、2014 年 3 月には、これまでの取組に対する評価を行い、今後のあり方、方向性等を整理し、愛知目標も踏まえた行動計画として「生物多様性ひょうご戦略」を改定します。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	農政環境部環境創造局自然環境課 尾崎 愛貴
T E L：	078-362-3274
E-mail：	shizenkankyo@pref.hyogo.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 福岡県

1 団体の取組紹介

福岡県では、里山の利用について、行政、地域住民、企業と協働した生物多様性保全活動を行っています。

例えば、休耕田を借り受け、湿地ビオトープを造成し、造成に併せて地域住民による保全団体を立ち上げ、草刈りや竹林伐採などの保全活動のほか、地域住民の参加募集を行い、田植え体験活動や自然観察会などの環境教育に活用しています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

生物多様性の保全は、行政単独でなしえるものではなく、教育機関、NPO・ボランティア団体、事業者など多様な主体による取組の推進が必要であり、他県の事例について情報をいただきたい。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	環境部自然環境課 池田
T E L：	092-643-3367
E-mail：	shizen@pref.fukuoka.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 福島県

1 団体の取組紹介

福島県では、生物多様性基本法に基づく地域戦略として「ふくしま生物多様性推進計画」を平成23年3月に策定しましたが、直前に東日本大震災が発災したことにより当県を取り巻く状況が大きく変わったことから、平成25年度に改定作業を行い、東日本大震災からの復旧・復興に当たっての当県が直面する課題と今後の生物多様性保全の取組について、改めて位置付けることにしました。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・人の営みと自然が共存してきた伝統的な里山文化を、今後も永続して守っていくための取組方策について、このネットワークを通じて情報交換していきたいと考えています。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	福島県生活環境部自然保護課 東村 真太郎
T E L：	024-521-7210
E-mail：	shizen@pref.fukushima.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 穴水町（石川県）

1 団体の取組紹介

当町では、平成23年6月に「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定されたのを機に、平成24年6月に「穴水町里山里海活用実行委員会」を設立する。

（目的）

里山里海の持続可能な利用により、古来より受け継がれてきたシステムを重視し、農法や土地利用だけでなく、生態系・景観・習慣等を含めて地域資源と考え、自世代への継承を図りながら、地域の賑わいや生業の創出を目指す。

（取組）

（H24）

文化景観推進部会・資源活用推進部会・地域賑わい推進部会を設置し、各部会による地域資源の掘り起こしを実施。

（H25）

担い手不足となりつつある伝統文化に、小・中・高校生の継続的な行事への継続的な参加体験を実施し、次世代への継承を図っている。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・行政と企業がタイアップした取り組みを推進したい。
- ・推進ネットワーク会員間の情報共有の構築。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担当者： 穴水町産業振興課 課長補佐 樋爪 友一

T E L： 0768-52-3670

E-mail： sanshin2@town.anamizu.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 伊那市（長野県）

1 団体の取組紹介

- ・ ますみヶ丘平地林を「市民の森」と位置付け、森林整備（保全、間伐）、森の活用（施設、道の整備）、市民参加（昆虫観察、イベント等）に取り組んでいる。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・ 交流、情報の提供
- ・ 技術や情報の集約、提供

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	農林部耕地林務課林務係 熊谷進
T E L：	0265-78-4111
E-mail：	ktr@inacity.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 越前市（福井県）

1 団体の取組紹介

越前市は、福井県のほぼ中央に位置し、国の特別天然記念物であるコウノトリとの縁が深く、昭和30年代には矢船町で9年間つがいが営巣したほか、昭和45年にはくちばしの折れたコウノトリ「武生」（コウちゃん）が飛来し、そのたびに住民による熱心な保護活動が行われてきた。平成22年からは、3年連続してコウノトリ「えっちゃん」が飛来している。

また、アベサンショウウオ（環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠA）をはじめとするメダカやゲンゴロウなど多くの希少野生生物が生息しており、平成16年に環境省「里地里山保全再生モデル事業」実施地域の一つに選定された。特に西部地域（白山及び坂口地区）では、アベサンショウウオの保全活動及び農地・水・環境保全向上対策事業による水田魚道の設置、ため池の外来生物駆除など、地域住民による熱心な里地里山の保全活動が行われている。

農業では、県や農業協同組合（JA）及び関係団体等と連携し、食の安全・安心と農村の自然環境保全を図るため、減農薬や減化学肥料による県認証特別栽培農産物の取組みを推進するために、市独自の支援を実施するなど環境調和型農業を積極的に推進している。

これらを背景として、里地里山生態系の頂点であり、本市に縁のあるコウノトリをシンボルに生物多様性の回復と環境調和型農業の推進を図り、人も生きものも元気な里を取り戻すため、「コウノトリが舞う里づくり戦略」（構想：H23年3月策定、実施計画：H24年3月策定）をH24年12月に作成し、① 里地里山の保全再生、② 環境調和型農業の推進と農産物のブランド化、③ 学びあいと交流 の3つの基本方針をもとに、具体的な数値目標を掲げて事業を推進している。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

コウノトリをシンボルとした里地里山の保全再生には、ヒトの関わりが不可欠である。地域住民の熱心な活動、また、市の取組みに興味・関心がある企業・団体等との連携を強く望んでいる。

3 その他（自由にご意見を記入ください）



越前市コウノトリイメージデザイン



コウノトリイメージキャラクター「えっちゃん」

担当者： 越前市産業環境部 三好、農林振興課 岩崎

T E L : 0778-22-3009

E-mail : iwasaki_lx@city.echizen.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 加賀市（石川県）

1 団体の取組紹介

ラムサール条約湿地「片野鴨池」は国指定絶滅危惧種トモエガモの日本最大の越冬地で国内に飛来するトモエガモのおよそ 1/3 が飛来します。そのため、本市では「ねぐら」である片野鴨池に加え、餌場として利用されている柴山潟及び周辺水田のラムサール条約追加登録を目指しています。

具体的には、カモ類の餌場の確保につながる「ふゆみずたんぼ」の普及に向けたフォーラムの開催やパンフレットの作成をおこなっているほか、H26 年度には減農薬・減肥料の環境保全型農業の普及に向けた技術指導もおこなう予定です。

また、片野鴨池のほとりある「加賀市鴨池観察館」には、野鳥の解説などをおこなうレンジャーが常駐しており、観察のアドバイスや鴨池の保全活動をおこなっています。

このほか、本市では、里山の賑わい創出を目的に石川県と連携しながら、生業の創出に取り組む地域の活動についても支援をおこなっています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

関心のある取組

- ・ 上記のような「ふゆみずたんぼ」や環境保全型農業の普及について
- ・ 地域連携による保全活動を推進する際の核となるキーパーソンの存在について
- ・ 里山エリアにおける生業創出の取組事例について
- ・ 企業と地域が協働した環境学習プログラムについて

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	地域振興部 環境課 課長補佐 山村 嘉康
T E L：	0761-72-7892
E-mail：	kankyou@city.kaga.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 掛川市（静岡県）

1 団体の取組紹介

掛川市は、南アルプスの最南端の八高山や大尾山の峰から、遠州灘まで多様な自然環境を有する豊かな自然に育まれたまちです。

掛川市では平成 24 年度に菊川市、島田市、牧之原市、川根本町の 5 市町で「静岡の茶草場」世界農業遺産推進協議会をつくり、昨年、日本では「トキと共生する佐渡の里山」と、「能登の里山里海」に次いで、「阿蘇の草原の維持と持続的農業」、「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」とともに世界農業遺産として FAO（国際連合食糧農業機関）に正式に認定されました。

世界農業遺産（GIAHS）国際会議では、より良いお茶の生産をするために、当地域で伝承され取り組まれ続けてきた茶草場農法により、茶農家が茶園周辺の半自然草地、すなわち茶草場の草を刈り取り管理することで、生物多様性保全が守られるという、生物多様性保全と持続的な自然と共生する農業生産活動の面で評価を頂きました。この伝統的に継続されてきた茶草場農法が、茶草場の希少な動植物（キキョウやフジタイゲキ、羽の退化したバッタ「カケガワフキバッタ」等）を守ってきました。良いお茶を作ろうとする農家の営み・努力と生物多様性の確保が両立しているこの地域は、世界的にも非常に珍しい事例です。

私たちは、この認定を誇りに思うとともに、受け継いできたこの農法や茶草場の価値を認識し、今後は、生物多様性保全への取り組みと持続可能な農業生産活動を推進していきたいと考えています。

また、掛川市では、市民や NPO 団体、企業との協働により「希望の森づくり」を推進しています。

森はあらゆる生物の生命の源泉と言われていますが、市民の水源を守る源流部の森林も、津波を減衰してくれる海岸部の松林も荒廃が進んでいます。東日本大震災や台風による集中豪雨では、私たちは自然災害の猛威とともに国土保全のための森林機能の大切さを痛感させられました。森林面積が市の半分近くを占め、海から山までつながった掛川市では、今こそ市民・企業・行政が協働し、森づくりを通じて「生命の尊さ」や「森の大切さ」の意識の共有が必要であると考え、いのちを守る「希望の森づくり」プロジェクトを立ち上げました。平成 24 年度から始まったこのプロジェクトでは松枯れや飛砂の問題が深刻な海岸部での植樹や今年度開院した中東遠総合医療センターなど、計 8 回の植樹を協働で行ってきました。これまでの実績は植樹本数 62, 500 本、参加者数 8, 000 人となり、今後も市では、継続して支援を行い、プロジェクトを推進していきます。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

とくになし

3 その他（自由にご意見を記入ください）

会議への参加はできませんが、情報提供をいただく場、あるいは今回のような各団体の取組を紹介し、交流をはかることができる場となればと思います。

担 当 者： 掛川市役所環境政策課 戸塚 宏五

T E L： 0537-21-1218

E-mail： kankyo@city.kakegawa.shizuoka.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 勝山市（福井県）

1 団体の取組紹介

福井県勝山市では、日本の原風景、また里山の代表的な生きものの一つである赤とんぼの保全活動「赤とんぼと共に生きるプロジェクト」に取り組んでいます。

この活動は、稲作に依存して生息している赤とんぼ（特に、アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボの3種）の生態調査を通じて、赤とんぼを減少させる要因の研究や水田生物の多様性の調査、赤とんぼの保全と米の収量を両立できる耕作方法の確立などを研究しています。この活動は、小学生から大人までが参加し、市民総参加型の活動として定着しつつあり、市民の環境意識向上につながっています。

こういった活動をはじめ、勝山の環境を活かした取り組みを通じて、里山の保全に取り組んでいきます。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

ネットワークを通して、各地・各団体で行われている独自の取り組みに関する情報収集に取り組みたいですと考えています。

また、同じような取り組みがあれば、ネットワークを通じてマッチングいただけると幸いに思います。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者： 市民・環境部環境政策課

T E L： 0779-88-8104

E-mail： kankyou@city.katsuyama.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 金沢市（石川県）

1 団体の取組紹介

金沢市の中山間地には、過疎化、高齢化が進み、存続が危ぐされる集落が30カ所程度存在する。平成24年度よりシルバー人材センターの人材を活用し、日々の生活や森林整備を支援し、暮らしの向上と森林の再生を図る「里山の灯りサポート」モデル事業を実施している。

- ・モデル地区 熊走町（20世帯、40人）
- ・事業内容 拠点施設「山の灯り里」設置、森林整備（草刈り等）、そばの生産支援（遊休農地利用）、市民農園開設、朝市の実施、交流まつり など

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担当者：	金沢市 農林局 森林再生課 大脇
T E L：	076-220-2217
E-mail：	oowaki@city.kanazawa.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 小松市（石川県）

1 団体の取組紹介

小松市は、加賀平野の中心にあり、日本海と霊峰白山に囲まれた水と緑の豊かなまちです。

市の面積の7割程度が里山、奥山であり、平成22年に自然と人との共存共栄を持続し、発展させるため、市民の皆様とともに「こまつ SATOYAMA 協議会」を立ち上げ、さらに翌年「里山自然学校こまつ滝ヶ原」を開校し、現在、里山の活性化活動の拠点として様々な交流・体験活動が行なわれています。

一方、霊峰白山を源流とする水が**県内で唯一自然のままの姿を残す木場潟や河川を形成し、多くの**動植物に潤いをもたらし、豊かな里海・里湖・里川の文化が生まれ継承されています。この豊かな自然環境を農林水産業、新産業、教育、文化などに活かして交流拡大に繋げるとともに、後世に引き継ぐことを目指し、水環境に係わる各団体を連携させた「こまつ水郷2020ネット」が発足されています。

このような小松市の豊かな自然・文化歴史が認められ、小松市は平成23年10月12日、北陸初、全国で11番目の「環境王国」に認定され、それ以降「環境王国こまつ」として、魅力と取り組みに付加価値をつけ、国内のみならず世界に向けて情報発信しています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・ 交流人口拡大に向け、特に大都市圏からの誘客に向けた取り組み。
- ・ 里山保全ボランティア活動参加者増加に向けた取り組み。
- ・ 県内外の高等教育機関との連携
- ・ 国内を代表する活動家（団体）への講演依頼
- ・ 活動に活用できる補助金・交付金制度の照会

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	小松市 経済環境部 環境王国こまつ推進本部 中橋 充
T E L：	0761-24-8078
E-mail：	k-oukoku@city.komatsu.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 西海市（長崎県）

1 団体の取組紹介

西海市では、平成２３年度から「SATOYAMA イニシアティブ」の考え方を参考に、西海市の里山・里海の利用促進による里山・里海保全を図っていくための仕組みを構築し、環境保全と地域産業の振興を連携させながら継続・成長をはかる「西海里山イニシアティブ推進事業」を実施。

平成２４年度に里山の恵みを生かした特産品を開発。平成２５年度から販売を開始し、その販売収益の一部を、西海里山基金に積み立てている。平成２６年２月８日、９日には、その里山基金を活用し、国指定天然記念物「七ツ釜鍾乳洞（ななつがましょうにゅうどう）」周辺の環境整備をするため、述べ１５０名の有志が里山保全活動を行った。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

企業の環境保全活動を取り込みたい。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者： 西海市役所さいかい力創造部政策企画課 坂本

T E L： 0959-37-0063

E-mail： seisaku@city.saikai.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 坂井市（福井県）

1 団体の取組紹介

坂井市では、市環境基本計画の重点プロジェクトの中で「森と里山の保全プロジェクト」を掲げており、“森と里山の大切さや、そこで生息する生き物たちの存在を知ってもらいながら、森と里山の保全を行い、生物多様性の確保や緑豊かな美しいまちを創造する”ための活動を展開しています。

具体的な取組みとしては、三国エリアに生息する希少生物を守るため、大学や地元団体と連携しながらアメリカザリガニ等の駆除作業や、希少生物が生息するための環境整備を行っています。

また、希少種の密採取を防止するためのパトロールを行うほか、地域への自然環境保全の啓発のため、市内の環境保全団体と連携した環境フォーラムの開催や、地元の小学生を対象とした自然観察会を開催し、環境教育に取り組んでいます

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

市民主導による里山保全活動が活性化するための行政の効果的な関わり方（支援策等）を情報交換したい。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	生活環境部環境推進課 橋向
T E L：	0776-50-3032
E-mail：	kankyou@city.fukui-sakai.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 鯖江市（福井県）

1 団体の取組紹介

鯖江市では、望ましい環境像として「人と生きものが仲よくらせるまち」の実現を目指した「鯖江市環境基本計画（改訂版）」を策定（平成22年3月）し、市民・環境団体・事業者・行政の各主体の協働により、以下の事項に取り組んでいます。

- ・山林の保全と整備
- ・里地里山の保全
- ・自然とのふれあいの推進
- ・野生鳥獣保護と有害鳥獣対策の推進
- ・動植物の保護と生息環境の保全
- ・法規制等による自然環境の保全
- ・市街地等における緑地の確保と景観の保全
- ・歴史、文化遺産の保全と活用

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・情報発信の強化
- ・経済的に持続可能な里山ビジネスに繋がるような、地域と企業、関係機関とのマッチング事業の実施

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	鯖江市環境課 田中
T E L：	0778-53-2227
E-mail：	Sc-kankyo@city.sabae.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 高浜町（福井県）

1 団体の取組紹介

高浜町では、里山の環境保全と産業振興等を目的に、平成 25 年 9 月 25 日に「青葉山麓研究所」を設立し、里山についての事業推進を進めていきたいと考えています。青葉山麓研究所では、環境部会、文化部会、教育部会、産業部会の 4 つの部会を設け、動植物の環境調査、ネイチャーガイドの養成、有用植物の活用、青葉山麓の文化・歴史の整理、そして地域の子供達への情報発信を進めていく予定です。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・ ネットワークを通じての情報発信や情報共有
- ・ 動植物の専門家とのネットワークと行政機関とのネットワークの構築
- ・ 薬草関連のネットワーク
- ・ バイオマスなど再生エネルギーのネットワーク
- ・ 若者の里山での起業に関するネットワーク

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者： まちづくり課 野村 労

T E L： 0770-72-7705

E-mail： machi@town.takahama.fukui.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 名古屋市

1 団体の取組紹介

名古屋市では、緑のまちづくり条例の第6章で、市民等との協働による緑のまちづくりを推進しており、市と協定を結んだ「緑のパートナー」という位置づけの団体があります。その多くは、市内に残る里山の保全活動を行っており、市としては人材育成などの支援を行っています。

また、「緑のパートナー」を含め、市内の公園・緑地において自然環境の保全や再生に取り組む市民団体の連絡会の運営支援も行っています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・ 企業と地域が協働した取組に関心がある
- ・ 活動助成金の制度づくり
- ・ 人的交流（実技演習など）

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担当者： 環境局環境企画課 本保

T E L： 052-972-2661

E-mail： a2661@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 七尾市（石川県）

1 団体の取組紹介

七尾市では、先人が守り伝えてきた里山里海を後世に引き継ぐべく、保全や維持、活用を目的とした『世界農業遺産「能登の里山里海」七尾市行動指針』を策定しました。

現在、地元企業と連携した環境教育や地域主体の環境配慮型農業、耕作放棄地再生や6次産業化など、行政と市民が連携して取り組んでいるところです。

まずは、地域住民が地域を知ることが最も重要であり、その上で地域を守り、また地域資源を活用することで、地域が主体となった都市農村交流や里山里海保全、さらには地域ならではの特産品開発などにつなげていきたいと考えています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

企業と地域が連携して取り組んでいる里山里海保全活動について、全国で行われている大小様々な規模の取組みについて教えていただきたい。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者： 七尾市産業部里山里海振興課 塚林佑司

T E L： 0767-53-8005

E-mail： y-tsukabayashi@city.nanao.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 能登町（石川県）

1 団体の取組紹介

能登町（のとちょう）は、平成 17 年 3 月に 2 町 1 村が合併し誕生しました。能登半島の北東部に位置し、北西端のブナが自生する鉢伏山から大型定置網が広がる海岸線まで、町域の約 8 割が丘陵地となっています。自然の恵みへの感謝の気持ちや神仏への信仰心が篤く、あばれ祭をはじめとするキリコ祭が町内各地区で盛んに行われており、アエノコトやアマメハギなどの農耕儀礼や民俗風習が今も受け継がれています。世界農業遺産認定を機に伝統文化、技術の伝承や環境保全の地域活動が活発化しており、関係団体と連携して取り組んでいます。



あえのこと送り



能登町宮地地区

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

規模が小さく高齢化率が高い地域が、地域ぐるみの取組みとして経済的に成功している事例について知りたい。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者： 西谷幸一

T E L： 0768 - 62 - 8503

E-mail： kikakuzaisei@town.noto.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 延岡市（宮崎県）

1 団体の取組紹介

延岡市は本ネットワークに参加している旭化成と共に、バイオマス発電設備において五ヶ瀬川流域等の森林資源を、経済的に成り立ち、持続可能な状態で利用することで、生物多様性の保全と化石燃料使用量削減の両立を目指しています。

間伐材の木質バイオマス燃料としての需要が見込める中、中山間地域での新たな収入の確保、雇用の創出につながるものと期待されています。

林地残材や間伐材の利用に当たっては、①継続的に供給できる体制、②供給側、需要側ともに経済的に成り立つ体制、③間伐材の利用が、結果として生物多様性の保全に貢献すること、の要件が必要と考えています。

このようなことから、間伐方法の違いによる下層植生や生物多様性の変化などを調査、研究し、効果的な間伐方法を確立し、同時に、将来にわたって継続的に生物多様性の変化が追跡できるように、動植物の専門家でなくとも広く一般市民が観察できるような「のべおか里山種」の選定を目指しています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	甲斐 克則
T E L：	0982-22-7018
E-mail：	nourin@city.nobeoka.miyazaki.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 羽咋市（石川県）

1 団体の取組紹介

羽咋市では、「はくい農業協同組合」と協働で、自然栽培を含む環境保全型農業を推進するため、新規就農研修施設等の整備を進めております。

具体的には、農村公園内に、ほ場、灌がい設備、耐久性ハウス、セミナーハウス等を整備し、この施設内で開催する「のと里山農業塾」で、自然栽培、有機栽培、エコ栽培の環境保全型農業の技術を習得してもらい、今後の羽咋市の特色ある農業経営と担い手の育成及び里山里海の保全を図っていきたいと考えているところです。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担当者： 舩岡 渉

T E L : 0767-22-1116

E-mail : nourin@city.hakui.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 松本市（長野県）

1 団体の取組紹介

松本市では、生物多様性を保全し豊かな自然を未来にひきつぐために、現在、生物多様性地域戦略の策定に向けた準備を進めています。地域戦略には、里山地域に関する基本的な計画も定める予定です。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

- ・ 他自治体や団体の取組事例の紹介

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	市民環境部環境保全課 主事 阿部航大
T E L：	0263-34-3267
E-mail：	Kankyo-k@city.matsumoto.nagano.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 真庭市（岡山県）

1 団体の取組紹介

岡山県真庭市では、排出権取引を活用した里山保全活動に取り組んでいます。市役所に導入された木質バイオマスボイラーで削減される二酸化炭素排出量をクレジットとして企業へ売却し、その売却益を森づくりへ還元しています。その森づくりの活動に、企業のCSR活動の一環として、社員の方々が参加し、市民と協働で里山保全活動を実施しています。下草刈りや除間伐等の作業から、里山での生き物観察会や巣箱設置、しいたけの植菌作業など、さまざまな里山文化を体験し、気づきを深めています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

新たなパートナーの発見、広域的な取組への展開
人材の確保・育成
他団体との交流・情報収集・情報発信

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者：	金田 保志
T E L：	0867-42-1113
E-mail：	yasushi_kaneda@city.maniwa.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名： 若狭町（福井県）

1 団体の取組紹介

若狭町は、ラムサール条約登録湿地の三方五湖、そして海あり山ありの恵まれた環境を有しており、その恵まれた環境と共生する社会を築いてきました。

平成 18 年に「若狭町バイオマスタウン構想」を策定し、豊かな地域資源を町ぐるみで利活用し地域振興に貢献できる取組を推進しています。

また、「若狭町環境宣言」を表明し、「共生」と「循環」をキーワードとしたまちづくりを進めています。

平成 25 年からは、三方五湖自然再生協議会に参画し、三方五湖および周辺の自然再生の取り組みとして、水田魚道による湖と田んぼのつながりの再生、湖に繁殖したヒシの刈取りや外来魚対策、環境に優しい農法などの研究実践をしています。

平成 25 年 9 月に開催された「SATOYAMA 国際会議 in ふくい」の際に、SATOYAMA 国際パートナーシップへの加盟承認をいただき、それを契機として更なる里山の保全と活用、持続可能なまちづくりを推進しています。

2 ネットワークへの要望や関心のある取組

ネットワークを通して情報発信、情報収集をさせていただきたいです。

3 その他（自由にご意見を記入ください）

担 当 者： 若狭町役場 環境安全課 井上尚志

T E L： 0770-45-9126

E-mail： kankyoanzen@town.fukui-wakasa.lg.jp

SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク メッセージシート

団体名: SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI)

1 団体の取組紹介	
・ SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) は、二次的自然環境の維持・再構築に取り組む国際的なネットワークです。2014 年 1 月現在、IPSI には 155 団体が参加しています。IPSI は、メンバー相互の情報共有や意見交換など多種多様な活動の場を提供し、またその活動を国内外に発信しています。	
2 ネットワークへの要望や関心のある取組	
・ IPSI のメンバーが主体となって、里山里海に関する国内ネットワークが設立されたことは、今回の石川県及び福井県による推進ネットワークが初めてであり、IPSI 事務局としても今後の活動に期待しております。推進ネットワークの活動を国際的に発信するとともに、IPSI の活動を推進ネットワークを通じて情報共有するなどの形で、連携を図りたいと考えております。 ・ IPSI は国際的なネットワークであるため、日本国内での行事開催や国内の団体の交流や意見交換の場を設けることが難しいという課題がありました。また、国内ネットワークは国連生物多様性の 10 年日本委員会とも連携をしており、国連機関という立場からも、日本国内で里山関連の活動を行う際に有用なネットワークであると認識しています。	
3 その他（自由にご意見を記入ください）	
・ SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク設立総会の開催は、福井で開催された第4回 IPSI 定例会合 (IPSI-4) の大きな成果の一つであると認識しています。 ・ IPSI の2014年の主な活動予定としては、7月のISAP2014 (持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム) 10月のCOP12 (生物多様性条約第12回締約国会議) に際して開催予定の第5回定例会合 (IPSI-5) などがあります。こうした会合へのご協力をお願いいたします。 ・ 国連大学には、GEOC (地球環境パートナーシップオフィス)、OUIK (いしかわ・かなざわオペレーティングユニット) などの機関があり、国内の関係機関との連携促進などに取り組んでいます。	
担 当 者 :	ウィリアム・ダンバー、小村はるみ
T E L :	045-221-2300
E-mail :	isi@ias.unu.edu

平成26年2月26日現在、53団体分を集計

編集：SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク事務局